同門会 会報

第 12 号

2019 年 9 月

長崎大学医学部眼科学教室同門会

目　次

患者になって　村田　稔　1

「働き方改革」と「コンプライアンス」　北岡　隆　2

総会・懇親会 報告　4

第 10 回 臨床研究奨励賞講演 抄録　上松　聖典　13

平成 29 年 長崎大学眼科同門会 収支報告　14

平成 30 年 長崎大学眼科同門会ゴルフコンペレポート　17

物故会員　19

物故会員の先生を偲んで

- 追悼　Amazing Bless with Junro Kishikawa　本多　繁昭　20
- 教育者　山之内外一先生 in 大分　中塚　和夫　23
- 弔辞（深澤桂子先生）　村田　稔　26
- 深澤先生をしのんで　中村　昌子　27
- 故津田寅雄先生を悼む　三島惠一郎　29
- 山本一喜先生を偲んで　中村　晋作　30

医局よりお知らせ　32

新入局員紹介　34

次回総会および懇親会のご案内　35

編集後記　麻生　順子　36

患者になって

長崎大学眼科同門会　会長　村田　稔

今年の夏はえらく梅雨明けが遅かったけれど去年みたいな猛暑にならなければいいなあ。歳を取ると夏の暑さが堪えてきて嫌だな。そんな事を考えながらの盆休みの 8 月 15 日の早朝 6 時頃、ふいに吐き気がして突き上げる塊の様なものを感じた。慌てて受け皿に顔を突っ込んで吐いたら、かなりの量の血液であった。

一緒に寝ていた犬が驚いて騒ぐのを、娘が私が倒れたと思いすぐに救急車を呼んだようである。幸い隣が消防署であり待つ事もなく隊員がやって来て担架に乗せられる。小雨の降る中を大学病院へ向かう。車中で幾つかの質問を受ける。

救急外来へ着くと、医師、看護師、検査技師と思われる人が数名待ち受けていた。CT、レントゲン検査等を受けて処置室へ。内視鏡で止血出来なかったら改めて方法を考えますと説明を受け書類に署名。血圧 80mmHg にしては意識もはっきりとしている。ヘモグロビン 4.5 と少し驚いた声があがる。マウスピースをくわえて処置が始まった頃には眠ってしまったようである。病室に帰ってもかなり寝ていたらしい。1.5cm 位の胃潰瘍からの出血（動脈血か？）であったがうまく止血出来たとの事。

少し落ち着いてくると食べる方が気になって来た。もともと食い意地が張っているせいか三日間の絶食は堪えた。点滴を受けているので空腹感はないが、口から摂取出来ないのは辛い。許可がおりて三分粥の（水みたいではあったが）朝食を口にした時は涙が出る程嬉しかった。

術後発熱があり、血液培養で黄色ブドウ球菌が生えたという事で検査が多くなった。「この際ゆっくりして行かれませんか」との主任 Ns、教授の有難い言葉を戴いて諸検査も積極的に受ける事にした。私の医局時代には想像も出来ないような器機だらけでただ感心するばかり。画像を見ながら説明を受けるので理解し易い。やはり視覚に頼るのが最良か。

看護室では皆さんパソコンと向き合っているのも不思議な感じ。病室訪問時も端末機持参。医療はグループだなと納得。医師、看護師、検査技師は勿論、私をいつも車椅子で検査場所まで送迎してくれる看護助手の方、部屋を毎日掃除して下さる方、元気よくシーツ交換をされる方…。

今回の入院で三つの病気を見つけて貰いました。古い部品は取り換えてすっきりとした体で 11 月の同門会で皆さんとお会いしましょう。

「働き方改革」と「コンプライアンス」

長崎大学眼科学教室　教授　北岡　隆

最近の医療分野でのトピックといえば「働き方改革」と「コンプライアンス」が挙げられます。

働き方改革の法律の施行は 2019 年 4 月からですが、数年前から「働き方改革」という言葉が人口に膾炙されるようになりました。「少子高齢化による生産年齢人口の減少」「働き方の多様化」「ストレスによる心の病」などによって「労働時間の短縮」、「個々の事情に応じた多様な働き方」が提言されてきた背景があり、本来「働き方改革」は良いことではありますが、医療分野ではそうとばかり言っておられません。聖路加国際病院で 2016 年 6 月に労働基準監督署の立ち入り検査の結果、時間外賃金の支払いに十数億円を支払ったというショッキングなニュースは記憶に新しいと思います。医療の分野では労働と自己研鑽の区別が難しく、「患者の診察」=「患者を診ることによる勉強」の側面がありますが、聖路加の例では病院にいる時間がすべて労働時間とみなされました。医局で夜食事をとること、医局のソファで横になって休むこと、教科書・論文で勉強することも病院にいる以上は労働とみなされ、労働基準監督署の介入以降は、仕事が終わるとすぐ院外に出るよう（帰るよう）にと指導されているといいます。

自身の研修医の頃の記憶を辿ると、病院・医局にいる時間がほぼ毎日 15 時間以上あり、平日は睡眠時間を除いて病院にいるような状態でした。土曜日に関していうと 4 週 5 休（4 週間のうちに 4 回の日曜日とあと 1 日土曜日がお休み）の時代でしたが、毎週土曜日は普通に外来があり、知らない間に休んでいることになっていました。日曜日も当直が回診するというシステムはなく個人的に同期の研修医に頼むしかなく、夏休み 1 週間と正月の 5 日以外はほぼ 1 年間毎日受け持ち患者の診察に通っていました。また 2 年目に静岡総合病院に転勤した時は、転勤前に天理病院に見学に行きたいので 2 日休みをもらいたいとお願いしましたが、認められず引っ越しのため金曜日、土曜日、日曜日の 3 日しか休ませてもらえませんでした。しかし自分自身が休むと周りに迷惑がかかりますし、そんなものと思い特に不自由は感じませんでした。海外留学の時も留学の前 3 日の休みをもらいましたが、事務手続き等は勤務しながら行いました。

最近は転勤の時に年休が残っているとそれを全部消化したり、海外留学の前に年休を全部消化したりするケースも人によってはあります。年休を取ることは当然の権利で悪いことではないのですが、人によって遠慮して取らない場合もあり、働き方改革そのものの主旨の理解が様々で、大学側の見解・システムも統一されていない感があります。長崎大学医学部はポンペの教えが基本にあり、しかし一方で働き方改革があります。医師の働きそのものが労働と学習・自己研鑽の線引きの難しく、同じことをしていても人によって労働と感じたり、自己研鑽であったりといった違いがありそうで、しばらくは混乱が続きそうです。

もう一つのコンプライアンスですが、これはデュオバン問題等に端を発しています。デュオバン問題は皆さんよくご存知だと思いますが、府立医大、滋賀医大、慈恵医大、千葉大、名古屋大から出されたデュオバンの効果に関する論文で、統計内容に不備があること、ノバルティスの社員が統計解析に関わり、利益相反に問題があるということで論文が撤回されるに至った事件です。この後利益相反に関してはそれまで以上に厳しく、過剰ともいえる状況になりました。

利益相反をはっきりさせ、公平性・透明性を確保するということは当然のことではありますが、研究計画を立てる上ではハードルが高くなっています。また前向き研究ではもちろんのこと、後ろ向き研究でも研究を開始する前に研究計画をたて、その後調べ始めるという流れになります（厳密にいうと試しに調べてみるということも問題になります）。倫理委員会に提出する書類は一つの研究で百ページを超える書類が必要で、ますます研究がやりにくくなってきています。また以前であれば研究費の中心を占めていた奨学寄附金が極端に減ってしまったことです。また大学の独法化により文科省から大学への予算は減少の一途で、その結果、大学本部から各教室への研究費（教室費）も 20 年前の 1 /4 程度です。この減少した教室費では論文のコピー費、写真費、印刷費等でなくなってしまいます。そのため研究室の事務員給はすべて教室の研究費から捻出しています。新たな治験を引き受けたり、競争的研究費の獲得に努力したりと頑張っていますが、なかなかコンスタントに研究費を獲得するのは難しい状況です。眼科では一部の篤志の同門の先生から多額のご寄付をいただき教室運営が成り立っています。しかしそれでも足りない分を医局費の値上げなどで賄っている状況が続いています。なんとかもっと広いご協力をいただければ幸いです。

今後もコンプライアンスを守りつつ研究費を獲得し、研究を活発にしていくという難しい舵取りが必要で、同門会各位のますますのご協力をお願い申し上げます。

総会・懇親会 報告

平成 30 年 11 月 17 日（土）ホテルニュー長崎におきまして、同門会総会及び懇親会が行われました。ご多忙の中 38 名の参加者があり、数多くの先生方にお集まりいただきました。今回は北岡教授はじめ和服着用の参加者が多く、とても華やかな会となりました。

18 時 30 分より第 10 回となる臨床研究奨励賞講演会を開催いたしました。今回は、「3D ヘッドアップ前眼部手術」と題し、長崎大学の上松聖典先生・ヤッセル ヘルミー モハメド先生が発表を行いました。

その後、総会が行われました。開会の辞の後、物故者への黙祷を捧げ、会長の村田稔先生よりご挨拶がありました。次に世話人の今村直樹先生より今年の経過報告が行われ、松屋直樹先生より平成 29 年長崎大学眼科同門会収支監査報告が行われました。最後に長崎大学眼科学教室の現教授である北岡 隆 先生より教室の近況報告があり、総会は無事閉会しました。

講演中の上松先生

上松先生とヤッセル先生

会長・村田先生

世話人・今村先生

監事・松屋先生

北岡教授

その後記念写真撮影をし、懇親会が開催されました。はじめに中塚和夫先生よりご挨拶と乾杯のご発声をいただき、祝宴が催されました。

山田浩喜先生、栗原潤子先生からスピーチを頂戴し,最後に、万歳三唱を白井 彰 先生に行っていただき、懇親会は盛況のうちに終了いたしました。

中塚和夫先生

懇親会進行
麻生先生

後列左より：中村晋・中村昌・村田・山下

前列左より：白井・三島惠・中塚　（以下敬称略）

後列左より：松屋・河野峰・山之内

前列左より：佐藤眞・北岡・助村

後列左より：今村・嵩・Yasser・東・麻生

前列左より：三島一・松永

後列左より：山田浩・築城・藤川・梶山・上松

前列左より：宮村・大野あ

後列左より：山田義・草野・前川・松永伸吾・植木

前列左より：栗原・松本

後列左より：受付（田本）・平田・受付（浜崎）・秋山郁

前列左より：伊藤・黒部

山田浩喜先生

栗原先生

白井先生

平成 30 年　長崎大学医学部眼科学教室同門会総会・懇親会　平成 30 年 11 月 17 日　於 ホテルニュー長崎

秋山　郁人	黒部　彩那	伊藤　理佐	松永　伸彦
山田　義久	梶山　彩乃	大野あかね	白井　　彰
松永　伸吾	草野　真央	栗原　潤子	中塚　和夫
東　登陽三	藤川亜月茶	平田　佑妃	三島惠一郎
Yasser Helmy Mohamed	麻生　順子	中村　昌子	北岡　　隆
松屋　直樹	今村　直樹	河野　峰子	村田　　稔
植木亮太郎	松本　牧子	助村　房子	山下壮之助
築城　英子	嵩　　義則	佐藤眞由美	中村　晋作
宮村　紀毅	上松　聖典	前川　有紀	山之内宏一
山田　浩喜		三島　一晃	隈上　武志
四列目	三列目	二列目	一列目

第 *10* 回 臨床研究奨励賞講演 抄録

3D ヘッドアップ前眼部手術

長崎大学　上松聖典

眼科領域でのヘッドアップ手術は、3D カメラ及び 3D ディスプレイ技術の進歩と普及に伴って増加し、術者のストレス軽減や手術教育に役立っている。これまでは後眼部の手術である網膜硝子体手術で使用されてきたが、前眼部手術である角膜内皮移植術（n DSAEK）および羊膜移植術もヘッドアップサージェリーで行うことが可能であった。

nDSAEK は右眼外傷性白内障術後の水疱性角膜症の症例において行われた。手術では、Zeiss 社 OPMI® RESCAN 700 にハイビジョン 3D カメラシステムを搭載し、観察光をモニター側に 100%に出力し、ハイビジョン 3D モニターに術野を映した。術者は偏光眼鏡を装用し、立体的に術野を観察しながら手術を行った。通常の観察倍率でほとんどの操作は可能だったが、角膜半層切開は強拡大で観察するほうが安全であると思われた。搭載した OCT によりグラフトの接着を確認することができた。前房の深さや、前房内でのグラフトの深度がわかりづらく、こまめにフォーカスを合わせる必要があったが、術者は眼精疲労などの症状は感じなかった。すべての手技は問題なく施行でき、術後経過は良好であった。羊膜移植術は術後 3 年で再発した右眼再発翼状片の症例において行われた。通常の観察倍率でほとんどの操作は可能だったが、羊膜縫合で強膜に通針する際は、強拡大で観察するほうが安全であると思われた。強膜上に薄く残存した増殖組織除去の際も強拡大像が有用だった。また、搭載した OCT により翼状片切除後の角膜厚を確認することができた。今回の条件では前眼部の観察像は立体感が強く、立体感の調整が望まれた。こまめにフォーカスを合わせる必要があったが、術者は眼精疲労などの症状は感じなかった。すべての手技は問題なく施行でき、術後経過は良好であった。前眼部手術においても、ヘッドアップサージェリーは安全に施行できることが示唆された。

平成 29 年 長崎大学眼科同門会 収支報告

（平成 29 年 1 月 1 日～平成 29 年 12 月 31 日まで）

収入の部		
科目	金額（円）	摘要
年会費	770,000	H29 年:129 名×5,000 円 H28 年: 6 名×5,000 円 H27 年: 8 名×5,000 円 H26 年: 6 名×5,000 円 H25 年: 3 名×5,000 円 H24 年: 2 名×5,000 円
預金利息	10	
懇親会会費	420,000	42 名×10,000 円
当期収入合計（A）	1,190,010	
前期繰越金	722,276	
収入合計（B）	1,912,286	
支出の部		
科目	金額（円）	摘要
印刷費	395,280	
通信費	69,346	
弔慰費	25,066	
賞与	100,000	
諸手当	60,000	
総会・懇親会費	397,875	
雑費	17,647	
当期支出合計(C)	1,065,214	
当期収支差額(A-C)	124,796	
次期繰越金(B-C)	847,072	

内訳表

収入の部			
科目	金額（円）	内訳	
年会費	770,000	H29 年:129 名×5,000 円	645,000
		H28 年:　6 名×5,000 円	30,000
		H27 年:　8 名×5,000 円	40,000
		H26 年:　6 名×5,000 円	30,000
		H25 年:　3 名×5,000 円	15,000
		H24 年:　2 名×5,000 円	10,000
預金利息	10	普通預金利息	10
懇親会会費	420,000	42 名×10,000 円	420,000

支出の部			
科目	金額（円）	内訳	
印刷費	395,280	1.　振込依頼書印刷	25,920
		2.　会報第 9 号印刷	369,360
通信費	69,346	1.　郵送料	27,940
		2.　葉書・切手	39,966
		3.　レターパック代	1,440
弔慰費	25,066	岸川潤郎先生 弔電	3,466
		岸川潤郎先生 供花	21,600
賞与	100,000	山田義久先生　臨床研究奨励賞	100,000
諸手当	60,000	総会受付係　3 名×10,000 円	30,000
		事務費（H29 年）	30,000
懇親会会費	397,875	ホテルニュー長崎　飲食代（懇親会）	391,725
		二次会代　不足分支払い	6,150
雑費	17,647	1.　手提げ袋・角印代	17,053
		2.　振込手数料　2 件	594

監 査 報 告 書

長崎大学医学部眼科学教室同門会の平成 29 年 1 月 1 日より平成 29 年 12 月 31 日までの収支報告書に付き、監査の結果が適正なものであると認めます。

平成 30 年 9 月 27 日

長崎大学医学部眼科学教室同門会

監事 松屋直樹 印

監事 佐藤安雄 印

平成 *30* 年長崎大学眼科同門会ｺﾞﾙﾌｺﾝﾍﾟﾚﾎﾟｰﾄ

第 11 回同門会ゴルフコンペは平成 30 年 11 月 18 日の日曜日に長崎国際ゴルフ倶楽部で開催されました。当日は曇っていたものの、雨や風はなく、比較的良いゴルフ日和でした。参加メンバーは、年齢順に中村晋作先生　助村房子先生　東登陽三先生　宮村紀毅　藤川亜月茶先生　時村源一郎先生とわずか 6 名でした。本来の担当幹事である松永伸彦先生は運動中バランスボールから落ちてしまう事故のため肩を痛め、欠席となり、この惨状を救うため、内助の功で奥様の淳子様が急遽参加していただくこととなりました。1 組目は中村、助村、東、宮村（敬称略）のやや年寄りチーム、2 組目は藤川、時村、松永夫人の若干若いかなチームで出発したのですが、アウトが終わったところで残念ながら藤川先生が救急患者さんのため途中棄権となりました。後半のインは助村先生に 2 組目に移動していただきプレーを再開しました。結果はメンバーが途中で変わるといった環境の変化にもうまく対応したのか助村先生がベストグロスでかつ優勝という大活躍でした。日本の縮図なのか同門会も高齢者が増加しゴルフコンペの参加者も減少傾向です。次回は皆さんのご参加をお待ちしています。

コンペの結果は以下の通りです。（敬称略）

順位	競技者	アウト	イン	グロス	ハンディ	ネット
1	助村　房子	45	50	95	22.8	72.2
2	宮村　紀毅	48	55	103	30.0	73.0
3	東　登陽三	52	46	98	22.8	75.2
4	松永　淳子	45	52	97	19.2	77.8
5	中村　晋作	54	49	103	24.0	79.0
6	時村源一郎	47	54	101	20.4	80.6
N・R	藤川亜月茶	0	0	0	0	0

宮村紀毅

左より：時村・東・宮村・中村晋・助村・松永・藤川

物故会員

氏名	出身大学	卒業年	ご逝去日	対応
岸川 潤郎 先生	長崎大	昭 31	H29.11.2	供花・弔電を手配
山之内外一 先生	長医大	昭 26	H30.2.3	供花・弔電を手配
深澤 桂子 先生	長崎大	昭 47	H30.2.5	供花・弔電を手配
津田 寅雄 先生	長崎大	昭 38	H30.11.2	供花・弔電を手配
山本 一喜 先生	長崎大	昭 42	H30.11.4	供花・弔電を手配

ご逝去されました会員の先生方を偲んで、次頁より追悼文を掲載させていただきました。ご逝去を悼み、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

物故会員の先生を偲んで

岸川潤郎先生 追悼

追悼　Amazing Bless with Junro Kishikawa

本多　繁昭

§ 長崎県眼科医会報第 103 号より転載 §

青く澄んだ空を B29 の編隊が悠々と北方より南の方向に飛んで行きます。私は小学校 3 年生になっていました。父は山口県立中央病院の耳鼻科医として勤務していましたが、いつの間にか召集されて、いつの間にか船に乗せられ、南方に派遣されていました。何月何日ということも不明。何処の港から出航したのかも不明。乗船している兵隊さんたちもよく知らなかった由。父は配給された服が夏服だったので、南洋だと知ったと話していました。多分その時は、真珠湾攻撃もすぐに迫っていたものと想像しています。母と兄、私の 3 人は父の実家が嫌だったらしく、父がいなくなると直ちに母の里に帰ってしまいました。女性がとかく実行する方法でした。

その後、潤郎兄さん（母方の従弟）との楽しい生活が始まりました。彼は昭和 6 年 3 月生まれで私と年齢がかけ離れていましたがとてもやさしくしてくださいました。食事も度々一緒に家族同様に同じテーブルで済ませていました。伊勢海老の味噌汁がうまかったことが印象に残っています。母は看護師の免許を持っていたので伯父たちの手伝いをしていました。唯一の収入源だったかも？軍からの給与については私は詳しいことは知りません。

グミという果物を皆さんご存知でしょうか？当時のことで経験した苦い思い出は、グミを思う存分近所の仲間と食べました。その結果、強烈な便秘となり七転八倒の苦しみに襲われたのでした。頭が割れるほど苦しみ、もう駄目だという頃にやっと伯父が診察に来てくれてあっという間に（多分指だった）便を取り出してくれて、苦しみから解放されました。この件の記憶は今も便秘の度に思い出します。

原子爆弾投下の日について。

この日の事も忘れることができないことの連続でした。潤郎兄さんの人生に多大な影を落としていたと思います。母の里（飯盛の田結）は長崎より丁度、被爆者手帳を貰えるくらいの距離に位置していました。強烈な閃光が走りました。写真を撮るときのマグネシウムの強さなどは比較にならない凄い閃光でした。丁度その時はお姉さんたち（親類）がペチャペチャと話をしていました（？）が、彼女たちは突然私を犬猫みたいに袋を入れる戸袋みたいな所に投げ入れました。何事が起ったと認知するまでもないうちに百雷が落ちたようにドーン！という音と暴風がやってきました。窓ガラスは割れ、戸は吹き飛ぶやら天変地異もかくやという様でした。家の外に出て椛島野方向を見たところ巨大な雲の塊がいろいろの色彩を見せ乍ら、空高く昇っていました。原子雲だったのです。

8 月でしたから日は長いわけでだんだん夕方になると負傷された方々が飯盛に帰って来られました。その負傷された方々の、怪我がものすごく、表現が難しいほどでした。火傷もものすごいものでした。潤郎兄さんの実家は大きな眼科医院でたくさんの病室がありました。全室をこれら負傷者に提供されていました。残念ながら、薬は適当なものはなく主に消毒薬を塗布しているようでした。長崎地方に大変なことが起こったというニュースが伝わってからは肉親を案ずることは誰でも同じでした。潤郎は大丈夫だろうかとご両親もさぞや心配されたでしょうが、私は小学校 3 年生のチビですから想像する事はできませんでしたが大人たちと夜遅くまで起きていました。夜 12 時頃だったと思います。服は汚れ履物は左右異なるものにて突然、潤郎兄さんが帰宅されたのでした。被爆状況について詳しく話されないようでした。翌日村の消防団の人が長崎の道案内を頼まれても拒否されたとのことでした。町は燃えており、地獄の状態の中を逃げて来られた訳ですから無理もありません。瓊浦中学はほぼ全滅であったといいます。潤郎兄さんは校庭の防空壕に入っており、運良く助かったとの由。強運の持ち主だったのです。然るに中学（瓊浦）は今の城山小学校の近くにあり、そこから飯盛までどのような道筋で帰宅されたのか不明です。燃えている街を通ることは困難だったと思います。私は日見のトンネルは通らなかったと想像しています。その後生き残った学生さんたちは長崎東校に編入され各自の人生をスタートすることになったという事です。夏休みに私も潤郎兄さんの所に諫早から遊びに行きました時に、深夜ふと目覚めてみると潤郎兄さんが蚊帳の外で深夜勉強されている様子を見る機会がありました。多分、長崎医科大学への受験に向かっておられたのだと思います。人生の難関に向かっている男の姿であったと思います。いつの間にか大学に合格し、眼科学教室に籍を置いておられた時、私は中学から高校にかけての年頃でした。昭和 33 年に教養部におりました。潤郎兄さんは 6 才上の先輩でしたのでとても興味深い話をしてくださったりしました。軍用機や車のエンジンの話、UFO の話等々です。当時は、長崎丸山が健在

で、教室から丸山の女性達の検診に行っており、その辺の他人には秘密にするようなことも面白くおかしく話してくれました。私も興味深々でした。男性であれば当然のことだったので医学部同級生にもお裾分けしました。

私は結核を中学生の時に経験したり、大学に入ってからも再発したり、親にも迷惑をかけてきました。潤郎兄さん達からも激励の手紙を頂戴したりしました。たくさんの人たちのおかげで今があります。潤郎兄さんはその後高島炭鉱の病院に眼科医として勤務したり、諫早総合病院にも勤務されたりしました。

昭和 32 年 7 月の諫早大水害では叔父様一家を全員失われたりもしました。急遽潤郎兄さんが跡継ぎにならざるを得ず、これまた人生の大曲に着任するという事になり、大変苦労された事と思います。幸い立派な奥様を伴侶とされ幸せな人生航路でしたでしょう。

文章が長くなりました。この辺りでよかでしょか。御家族様。

山之内卯一先生 追悼

教育者　山之内卯一先生 in 大分

中塚　和夫

教育者：山之内卯一先生のお年は、昭和そのものであった。今年、平成 30 年は昭和 93 年に当たるので、7 月の誕生日で 93 歳、と覚え易かった。

大学の臨床医は教育・研究・診療の三つを担うのであるが、12 年間（正味 10 年間）大分医大でご一緒した山之内先生は、教育への情熱が圧倒的に高い教官であられた。その先生の医大退職時（平成 3 年 3 月）、平松学園視能訓練士専門学校校長という格好の席が用意されていた。以来、29 年 9 月まで 26 年 6 ヶ月に渡り重責を務めてこられた。

専門学校のカリキュラム構成に、講師派遣、病院実習と大学眼科に依る支援は必須である。人材も関連病院も不十分な当時、後任教授の私はかなりの負担感を覚えたと記憶する。といっても、前任者への協力・支援は責務と考え、概ね学校からの要請には応えていた。私自身も、毎年 1 月に色覚と網膜電図の講義へ行った。生徒さんは校長の薫陶よろしく、今時の若者には珍しく礼儀正しかった。授業の開始と終了時、全員が起立し講師に礼をするのにびっくり、一瞬失われた古き良き時代に、タイムスリップしたのであった。

授業の合間、授業後に壁一面が図書の校長室で、先生は 20 歳前後の生徒を教育することの難しさを語られた。厳しい指導を窺い知ると共に、進級判定、国家試験合格、そして就職先探しと真摯に生徒と向き合っておられるのに感銘したこと何度か。

関係者を招いての卒業謝恩会、今も彷彿とする実にお似合いの蝶ネクタイ姿に満面の笑み。心の底から教育好きの先生にとって、この四半世紀あまりは真に充実した第二の人生であったに相異ない。

先生は旧制佐賀高校の文科に在学されていたと聞く。ご子息の話では亡くなられる少し前まで読書に執着され、4 ヶ月前の大分から長崎への引っ越しの際は、蔵書がダンボール 100 箱にもなったとのこと。2 月 4 日通夜、仏は愛用の眼鏡をしっかりと掛けておられた。今頃は読

み残した蔵書を１冊、２冊と繙（ひもと）いておられるかと思う。先生お疲れさまでした。

（H.30.4　大分医大同窓会誌第 13 号より）

酒豪？：お酒が好きであられた。血糖・血圧の適正化のために、日頃の食事をちづ夫人に管理されていた反動で、特別講演演者の歓迎会などでの外呑みでは、お酒がかなり進んだ（写真 1 は S.62 年 12 月で、向って右は尾渡県眼科医会会長、左は中谷一先生。ふぐ刺しを前に、ひれ酒となります）。丸尾敏夫先生の歓迎会（平成元年 11 月）では、いつの間にか手酌となり、それを見た隣の丸尾先生がびっくりした顔つきをされた（私がちゃんとお酌をしなかったのが悪かった）。

愛妻家：先生は愛妻家であられ、教授退任前後の海外学会参加は奥様同伴が多かった（写真 2 は 1994 年 6 月、トロントでの ICO において、宇山先生ご夫妻、小口先生と。先生 68 歳、左端がちづ夫人）。

先生は運転免許を所有されていないので、移動は奥様が運転する車を頼りにされていた。奥様に先立たれてからの生活は不便だったに違いない。世俗から解放され、今はもう安心して奥様の手料理で晩酌しておられるのでは、と思うことである。

【写真 1】
ふぐが好物だった山之内先生

【写真 2】

左端：ちづ夫人

中央：山之内先生

御礼とご報告

この度　故山之内外一先生より生前のお志として　同門会へご寄付をいただきました

故山之内外一先生には　生前長年にわたり眼科発展のため御尽力を賜りました

故人ならびに御遺族の皆様のご厚情に対し　深く感謝申し上げます

有意義に活用させていただきますことをご報告申し上げ

御礼のご挨拶とさせていただきます

深澤桂子先生 追悼

弔　辞

村田　　稔

§ 長崎県眼科医会報第 103 号より転載 §

この度は深澤桂子先生の訃報に接し心よりお悔やみ申し上げます。と型通りの文言を述べましたが内心はとてもそんな心境ではありません。というのは私の中には今でもお元気な姿、声が残っているからです。

あれは昨年（平成 29 年）7 月の山水会の会合に出かける直前でした。電話があり、何時もと変わらぬ元気な少し早口な声で「先生お願いがあるの。実は、私ガンになっちゃって（命が）あまり長くはないと思うけれど、治療を受ける為に入院するので代診を・・・・・。」という事でした。あまりに突然だったのでこちらは何を喋ったかよく覚えていませんが、この先体調が悪くなる事も多くなるだろうと考えて、携帯メールでのやり取りをする事にしました。「楽しい会の前にごめんなさい。皆に迷惑がかかるから黙っていてね。」と気遣っておられましたので「もし尋ねられたら少し体調を崩して休んでいると言っておく」と伝えたもののこれは大変でした。

何せ講演会や同門会等に皆勤の真面目な先生です。会員の皆さんが何かあったのではないかと思うのも時間の問題です。事実葬儀のあとにやっぱりという声を何人か聞きました。

先生は私と同期で長崎大学 S47 年卒です。この学年は入学時からストレート卒業がわずか 1/3 という大変な学年で、私も学部の 4 年間を一緒に過ごしましたが付いて行くのに必死でした。その上、学園闘争も激しくストライキの影響で昼夜二部授業も経験しています。

先生は文字通り紅一点で、クラスで周りは男性ばかりで苦労があったろうと思われますが、そんな感じは全く見せず何事もテキパキと処理され皆の憧れの存在でした。

入局してからは柿本（現　中村）昌子先生が同期で入られ、女性 2 名で安心された事でしょう。この時は 5 名の入局でしたので心強くその後も楽しく過ごすことができました。

とにかく元気で活動的な先生で趣味は学生時代にはエルビスプレスリーのファンだと言ってましたが、近年は「自分はスポーツ音痴なの」と言いながら、サッカー観戦や甲子園の応援まで行かれたようです。特にこの数年はフィギィアスケートのショーを見るのを楽しみにしていたようで「真央ちゃんを見てきたわ！」とよく報告を受けました。深澤眼科医院の診察室には大きなパネルがあります。

還暦を過ぎてからのこのパワーはどこから来るのでしょうか？私なんぞは自称スポーツ通とはいいながら会場まで足を運ぶことなどなく、せいぜい夜のネオン街へ出ていくのがやっとで、深澤先生には本当に感心します。

そんな先生でしたので、まだまだやりたいことはたくさんあったと思いますが、医院の方は祥子先生が立派に継承されていますので安心してください。しかし、母親が亡くなるという事は特に娘にとって一番の相談相手がいなくなるという大変な事を私自身経験していますので、どうぞ天国から見守ってあげてください。お願いします。

合掌

深澤先生をしのんで

§ 長崎県眼科医会報第 103 号より転載 §

中村　昌子

平成 30 年 2 月 6 日に、深澤先生の訃報のファックスが届き、早すぎる死に驚きました。学会や勉強会に行くといつも出席されるのに、姿を見なくなり、はじめは、次は会えるだろうと思っておりましたが、なかなか会えずにやっぱりおかしいと思い連絡しました。

電話が通じると、自分のほうから「末期のがんで、もう助からんのよ。発見されたときは、手術できないと言われ、即入院だったの。抗ガン剤治療がつらくてね。」と死期の予告を受けていらっしゃいました。体調が悪く入退院繰り返しながら、体力のなくなる中、治療の寛解期になると継承の事、自分の亡き後の事等考えられ、準備される姿に、私は鳥肌が立ちました。こんなに冷静に、話し考えられるのかと彼女の凄さを思いました。正直で、まっすぐで、頭が良い上に努力家で、毎日働く体力をあり、家庭生活、開業生活を続けていらっしゃる姿は、自分にできないことをされている深澤先生は尊敬の的で誇らしく思っていました。

私は東京の大学を卒業して長崎大学眼科学教室に入局しました。同期に村田先生、松鵜先生、小里先生（深澤）、主人の中村晋作 5 人でいつも仲良くしていただきました。特に深澤先生は優しくて、頼りにしていて、眼科の事、大学の事、色々と本当によく考えていただきました。

下宿して何も食べずに仕事に来ていることがわかると、朝ご飯を持ってきて下さり、お手製弁当も頂きお世話になりました。そのあと私は結婚、出産、子育てと自分の生活の事で手一杯、医局の人事や行事、学会開催のことなど何も考えられずに、子供を産み休みました。

深澤先生は、私が医局に迷惑をかけるのを見ながら、自分はそうはしないと、なお一層私の分、これからの後輩の女医さんの事を考えられ頑張られたのだと思います。深澤先生には一番迷惑をかけ、同じ時期の先生方にもたくさんの迷惑をかけたのだと思っています。

開業して二人目の子供さんを産むときには、産後の代診の依頼は早くから決められ、お産の日まで働かれ、お産に向かうタクシーの中から陣痛の合間に今から休むと連絡されました。

責任感の強い深澤先生の一面だと思います。年を重ねるたびに色々と悩みが出てきますが、その中で、仕事をしてさらにほかの仕事をする体力、意思、責任、能力のたかさは際立たれていました。責任ある眼科医会の副会長をされながら、司馬遼太郎の著書をすべて読破、プレスリー、ひばりへの傾倒、中でも浅田真央の応援では、大阪まで日帰りで行かれ、「近くで見ると感動が違うね。」と目をキラキラさせて話しされているのが思い出されます。素晴らしい事への関心は超一流で、頭がいいので色々なことの理解が早く、水泳など熱心に体力維持に努力されていましたから、病気とは思われなかったのだと思います。実行力があり、優秀でこれからもっともっと眼科医としても、活躍された事でしょう。そして時間に追われることなくゆっくりしたい時間も欲しかったでしょうに。残念でなりません。今も学会に行くと、時間前には必ず席に座られていた深澤先生を探しています。お洒落な姿が見られなくて、あの笑顔に会えないのは寂しいです。色々と書き足りませんが、本当に色々とありがとうございました。

心よりご冥福を祈っています。

津田寅雄先生 追悼

故津田寅雄先生を悼む

§ 長崎県眼科医会報第 103 号より転載 §

三島惠一郎

津田寅雄先生が黄泉へ旅され、私は寂しくなりました。

津田先生とは終戦翌年（1946）旧制県立大村中学校からの同級生ですが、津田君と呼称させていただきます。

中学、高校の 6 年間は津田君と特別な付き合いはありませんでしたが、昭和 27 年（1952）長崎大学医学部進学コースの合格者は同級生の中で二人だけでしたので、意気投合して親友となり、夢も語り合い、楽しく過ごしていました。

しかし、医学進学コース教養部 2 年目に彼は肺結核の診断を受け、休学して闘病生活を始めました。当時は肺結核患者が未だ多く、医療も現在の様には進んでいませんでしたので、人工気胸や胸郭形成術などを受け、結局、彼は片肺を無くしました。当時は抗生物質として肺結核にはストレプトマイシンが使用されていましたが、難聴という副作用があり、恐れながらの闘病生活は苦痛だったようです。死亡率も未だ高く生き残れたことは幸運なのです。

復学後、昭和 38 年（1963）に医学部を卒業し眼科に入局されました。同期には故高野多門、故宇野宏の両先生も入局されましたが、両先生は早く故人となられ、皮肉にも闘病生活の長かった津田君が長生きしました。

入局後は故高久教授からの信頼も厚く、長崎市民病院に眼科医長として出向し、その後、現在の八百屋町に眼科医院を開業され、人気も出て繁盛し、私に「あんたも早う開業せんネ」と発破かけられました。

彼は運動神経も良く、入局後は眼科教室の野球チームの中では強力な選手として健闘されていました。また、大の巨人ファンで何となく巨人の長嶋茂雄終身名誉監督と風貌が似ていると私自身は思っていました。

数年前、残っている片肺の先端に小さな癌が見つかり治療を始めましたが、落ち込んでいると聞きましたので、私から囲碁でもやってストレスを解消しようと提案し実現しました。

自宅に伺い高校時代の話や家族の話もしますが、津田家の優秀なご子息やお孫さんの話は羨ましくなり、引け目を感じていました。囲碁の勝負はとんとんで冗談を飛ばしながら楽しい時間帯を作っていました。彼が勝った時は誇らしげな笑顔が今も私の目に焼き付いています。

亡くなられる 1 週間前に見舞いに行きました時は、まだ元気で 85 歳の誕生日を迎え、結婚 60 周年の話を自慢していました。病気が落ち着いたら、また、囲碁をしようと約束して帰ったばかりでしたが、残念です。

津田先生は最高の友人でした。安らかにお休みください。

山本一喜先生 追悼

山本一喜先生を偲んで

§ 長崎県眼科医会報第 103 号より転載 §

中村　晋作

先生の突然の訃報を聞いて驚きました。そして医局を出てから一度も遊びに行ったり、お見舞いにも行かなかったことを悔やんでおります。

先生とはたくさんの思い出があります。まだ子供が小さかったころ、家族連れで海水浴に連れて行っていただいた事がありました。息子が、海水パンツを忘れて泣きそうになっていたら、先生が『秀雄も海水パンツを脱いで宗平君と同じパンツで泳ぎなさい。』と言っていただき、秀雄君も一つも嫌な顔せず、楽しそうに泳いでいました。有難く思ったものでした。

宗平が 1 歳、秀雄君が 2 歳のころ、大学病院に保育所があり、二人ともそこに預かっていただいていたのですが、抄読会が終わるころになると、先生が昌子に目で合図して、宗平・昌子を家まで送っていただいた事がありました。また、昌子が大学病院の玄関の所で、財布をどこかに落として、タクシー代の持ち合わせがなく、（研修医時代でお金もあまりないころ）途方に暮れていたところに、偶然先生がいらっしゃって、『どうした？』、『財布を落としたんです。』と今にも泣きそうに言うと、『それは、もう出て来んじゃろね。車に乗りなさい。』と言って家まで送ってくださったと、先生の話になると、いつもこの事を思い出し、感謝していました。

また、お酒が好きで、よく飲みに連れて行ってもらいました。夕方 7 時ごろ、ふらっと自宅に来られ、玄関からではなく、居間のドアをガラッと開けて『オイ、飲みに行くぞ。』、『昨晩 3 時まで飲んでいたんですが…。』、『俺は毎晩 3 時まで飲んどる。』、『わかりました。』と先生行きつけのスナックで、入ってすわるなり、いきなりそこのマスター（さんちゃん）に『さんちゃん、セデスを 2 包くれんね。』と言われ、二人でまずセデスを飲んで、しばらくすると、痛みが取れて、その後は楽しく飲んで、やはり午前様でした。本当によく飲みに連れて行ってもらい、かわいがっていただきました。

私の開業の開業披露の時（小浜のホテルでしたのですが）は、前日から来られて、昼は釣りをされ、夕方には、私の自宅に来られて、酒を飲みながら、色々開業にあたってのご指導を受けたものでした。心配されていたのだと思います。

先生は、豪快で、それでいて繊細で優しいところもあり、飲むと楽しくなり、ちょっぴり怖いところもあったのですが、本当によく面倒を見ていただきました。ありがとうございました。

山本一喜先生のご冥福を心よりお祈り致します。　　合掌

医局よりお知らせ

平成 30 年 11 月以降の医局内の異動等は下記のとおりです。

異　動				
異動日	氏名	旧 勤務先	→	新 勤務先
H30.12.31	山田義久	長崎大学	→	退職（やまだ眼科ｸﾘﾆｯｸ）
H31. 4. 1	岡　朱莉	ローテート	→	長崎大学
H31. 4. 1	村上隆哉	ローテート	→	長崎大学
R 元.6.30	稲本美和子	長崎医療センター	→	退職（いなもと眼科）
R 元. 7.1	井上大輔	長崎医療センター	→	長崎大学
R 元. 7.1	土井祐介	五島中央病院	→	長崎大学
R 元. 7.1	中尾志郎	成育医療センター	→	長崎医療センター
R 元. 7.1	植木亮太郎	長崎大学	→	五島中央病院
R 元. 7.1	原田康平	長崎大学	→	国内留学(京都府立医大)
R 元. 7.1	宮城清弦	長崎大学	→	国内留学(岐阜薬科大学)

～関連病院スタッフ一覧～（9 月現在）

日赤長崎原爆病院	栗原潤子、米田 愛、（黒部彩那：育休中）
長崎あじさい病院	出口裕子
重工記念長崎病院	三浦陽子
井上病院	林田裕彦
諫早総合病院	時村源一郎
長崎医療センター	松永伸吾、中尾志郎、町田　祥、（丸田知央子）
佐世保市総合医療センター	藤川亜月茶、岸川泰宏、久保田 伸、梅津絵美、伊藤理佐、（田代紘子）
佐世保中央病院	和田光代
五島中央病院	植木亮太郎
上五島病院	遠藤未紗

令和元年 9 月現在の大学病院外来予定

（ ※は、非常勤です）

	午前	午後
月	新患（北岡、上松、松本、木下博、梶山、河野、佐藤健、秋山） 黄斑（築城、草野、前川）	造影（FA/IA：栗原※、築城、前川） （FA：梶山、秋山、平田） コンタクト（岡 / 村上）
火	緑内障・一般再診（隈上、梶山、木下博、草野、井上、佐藤健、平田）、（嵩※：第四火曜日のみ） ぶどう膜（原田史、大野※、秋山 / 河野、土井）	硝子体注射 （梶山 / 平田、河野 / 秋山） 手術
水	新患（北岡、梶山、草野 / 木下博、河野 / 秋山、土井、前川、松隈※） 未熟児（原田史） 角膜（今村※、上松、井上）	硝子体注射（原田史 / 梶山、土井/井上） 義眼（上松 / 木下博：第四水曜日のみ）
木	糖尿病・循環・一般再診 （築城、松本、木下博、前川、井上 / 土井、河野、佐藤健、秋山、平田、木下和※、松隈※、岡、村上） 眼瞼（麻生※、平田、秋山等：第三木曜日のみ）	レーザー（河野） 涙道（草野） 斜視・弱視（上松、原田史、土井 / 平田）
金	新患（隈上、松本、原田史、井上 / 土井、平田、河野、松隈※、木下和※） 剥離（秋山） 眼窩（三島※、木下博、岡 / 村上）	硝子体注射（木下和、梶山 / 原田史/河野 / 秋山 / 平田） 手術

新患：月・水・金　　再診（専門外来）：上記（予約制）　　受付時間：8 時半～11 時

医局長：松本牧子　　外来医長：木下博文　　病棟医長：上松聖典

新入局員紹介

岡　朱莉（おか　あかり）

新入局員の岡朱莉と申します。

佐世保北高校出身、平成 28 年度に佐賀大学を卒業し、初期研修から長崎へ戻ってきました。大学ではヨット部に所属し、趣味は野球観戦です。

眼科疾患の専門性の高さや、幅広い年代の患者と関わることができるところに魅力を感じ、この度入局させていただく運びとなりました。優しくも熱心にご指導してくださる先生方のもと、日々成長できるよう努力して参りたいと思います。

まだまだご迷惑をおかけすることも多々あると思いますが、温かいご指導のほどよろしくお願い致します。

村上　隆哉（むらかみ　りゅうや）

新入局員の村上隆哉と申します。

長崎で生まれましたが、小学生の頃より関西（神戸、京都）に住んでおりました。兵庫県の灘高校を卒業後、山形大学に進学し平成 29 年に卒業しました。大学時代はゴルフ部に所属しておりました。初期研修は生まれ故郷である長崎に戻り、長崎大学病院（2 年目はたすきがけで原爆病院）で初期研修をさせて頂きとても充実した 2 年間を送らせて頂きました。

今年度より長崎大学病院眼科に入局させて頂き、優しく熱心な先生方のご指導のもと、充実した毎日を過ごさせて頂いております。

まだまだ未熟な身で、今後もご迷惑をおかけすることが多々あると思いますが、ご指導、ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い致します。

次回総会のご案内

長崎大学眼科同門会総会および懇親会

日時：2019 年 11 月 2 日（土）18 時 30 分より

場所：ホテルニュー長崎　3 階　丹頂の間

長崎大学眼科同門会ゴルフコンペ

日時：2019 年 11 月 3 日（日）7 時 49 分スタート（3 組）

場所：長崎国際ゴルフクラブ

※案内状はすでにお送りしておりますのでご確認ください

編集後記

麻生　順子

これが皆様のお手元に届く頃は肌寒くなっていることと思います．
今年は今のところ長崎県では台風の大きな被害はありませんし，今後も出ないことを祈っておりますが，先日患者さんから“眼科で停電になってできることはあるんですか”と質問を受けました．千葉での台風被害による長期間の停電の報道を受けてのことと思います．その時は“うちは電子カルテなのでお薬も何も分からないし，停電したら休診にするしかないですね”と答えました．考えてみれば停電でも使えるのは手持ちのスリット，アイケア（接触型眼圧測定器），倒像鏡（充電が切れるまで）の 3 種と自分の眼だけです．外眼部の診断は多少できても老眼の眼では異物除去や睫毛抜去すらできるかどうか．ちょっと考えさせられました．

今号は物故会員の先生を偲ぶページが多いです．長崎県眼科医会報と同門会誌の両方に書いていただくのが申し訳なく，本年より眼科医会報からの転載も使わせていただいております．ご了承ください．

それではまた同門会でお会いいたしましょう．

令和元年９月　発行

＊　長崎大学眼科同門会 会報 編集委員　＊

あそう眼科　　麻生　順子
長崎大学　　築城　英子

＊　長崎大学眼科同門会事務局　連絡先　＊

〒852-8501　長崎市坂本１丁目７番１号
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
眼科・視覚科学教室内
担当　受付　恒成(つねなり)由美子
E-mail: tyumi@nagasaki-u.ac.jp
TEL　095-819-7345
FAX　095-819-7347